

正しい知識を持って

# がん検診

を受診しましょう

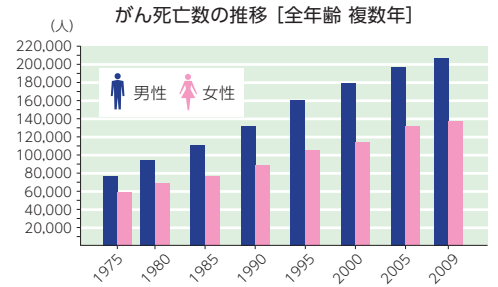


日本人の**死因第1位**は「**がん**」です。

がんの**死亡数**と**罹患数**はともに**増加**し続けています。しかし診断と治療の進歩により、一部のがんでは**早期発見**、そして**早期治療**が可能となってきました。そのわけは、一つは**総合健診**、**がん検診**、**人間ドック**などが普及したこと。もう一つはその**精度**が向上したこと。がん検診はそうした医療技術に基づき、**がんの死亡率を減少**させることができる**確実な方法**です。

がん検診を正しく受けるためには、「**がんを知る**」ことが重要です。

正しい知識を持ってがん検診を受診しましょう。



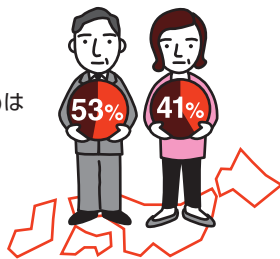
資料：独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター

## がんを知っていますか？

日本人の**2人に1人**が、**がん**になります。

生涯の中で発がんするリスク(生涯リスク)は**男性 53%**、**女性 41%**です。

(平成16年国立がん研究センターがん情報研究センターによる推計値)



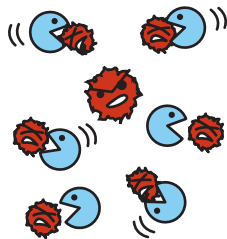
がんは、細胞の**コピーミス**から生まれます。

人間のカラダの細胞は、約**60兆個**の細胞からなっています。毎日**1%**くらいの細胞が死にます。細胞分裂をして、減った細胞を補っていますが、細胞分裂をする際に、**コピーミス**を起こすことがあります。それが遺伝子の突然変異となり「**死なない細胞**」として残った細胞が**がん細胞**です。



がん細胞は、**1日に5,000個**もできます。

最近では、がん細胞は、健康な人のカラダでも多数(学説によっては**1日に5,000個**も!)できていることがわかっています。それでも免疫細胞は、できたばかりのがん細胞を攻撃して死滅させます。しかし、免疫による監視も人間のすることですから、やはりミスが起こります。



がん細胞が**1cm~2cm**程に成長するには**10年から20年**かかります。

ひっそりと残った、たったひとつのがん細胞は、1個が2個、2個が4個、時と共に倍々ゲームのように増えて行きます。たった一つのがん細胞が**1cm~2cm**程度に大きくなり、検査でわかるほど大きくなるには、**10年から20年**の時間がかかります。



## がん で命を落とさないために

タバコがなくなれば**男性のがんが3分の1**減ります。

がんの最大の原因は、タバコです。タバコがなくなれば、**男性のがんの1/3**がなくなると言われています。現在、日本で最も死亡が多いがんが、**肺がん**です。直接喫煙の影響はもちろんですが、**間接喫煙**による他人への影響が大きな問題です。



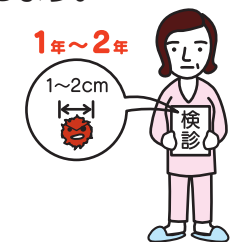
**早期**にがんを見つければ**完治**する可能性が高まります。

がんは不治の病ではありません。現在、全体で見れば、**半分程度**のがんは治ると言えます。がんがまだ**1~2cm**程度の時期、つまり**早期**に発見できれば、**治療率**は高まります。



早期にがんを発見するためには、**1~2年**ごとに検診を受けましょう。

乳がんの場合、**1cm**のがんが**2cm**になるには、たった**3回**の分裂、**1年半**です。**1cm**以下のがんは検査をしても、**発見が困難**です。乳がんの場合、**早期がん**は**2cm**をさしますから、**検査で発見**できる**1cm~2cm**の**早期がん**で発見するには、**検診を2年ごと**に受けなければなりません。



がん検診を受けないせいで、**アメリカ**では**減**っているがんによる死亡が、**日本**では**増**えています。

子宮頸がんの検診は、**アメリカ**では**8割以上**の女性が受けているのに対して、**日本**では**2割程度**です。日本人のがん検診受診率は先進国の中では**最低**です。がんによる死亡が欧米では減っているのに、**日本**で増えている理由にひとつがこの**検診受診率の低さ**です。

